令和７年度事業報告

（令和７年４月１日～令和８年３月３１日）

１．視覚障害者の更生相談事業

（１）外国籍視覚障害者に関する障害基礎年金、福祉施策等

在日外国人の増加のなかで、視覚に障害のある者に関する相談・問い合わせは増えている。日本語学習に関するものがもっとも多いが、学校教育や、福祉に関するものも出てきている。第２種の社会福祉事業を行う法人としての位置づけのなかで、この分野での活動は今後私たちの大切な事業である。以下は具体的な相談事例である。

ネパールから来日した視覚障害青年の教育、日本語、点字などについて、自治体から問い合わせがあり、元留学生のレカさんが細やかな通訳をして、寄り添いながら、地元支援団体や盲学校、親などと相談をした。

医療機関から今後入院予定のフィリピンでの生活が長く、日本語があまりできない日本国籍の視覚障害の方についての、今後のリハビリなどについて、相談があった。実際入院が始まったら、再度問い合わせしていただくように回答した。場合によっては、通訳の調整が必要になることもある。

都内在住のアメリカ人盲導犬ユーザーの妻より、地元の日本語教室に問い合わせたら、視覚障害だとテキストがない、アクセスの安全が保障できないということで断られたと地元の社会福祉協議会を通して問い合わせがあった。こちらの日本語の先生がオンラインで教えることを協議している。

在日のモンゴルの方から進行性の眼病になったとのことで相談したいという問い合わせがあった。今後具体的な相談が始まる見込み。

（２）海外からの視覚障害者の日本留学に関する相談と支援

モンゴルから筑波技術大で情報処理を学ぶために来日した学生の障害者手帳の取得と、障害基礎年金請求について、同大の先生と協力して相談と手続きを行った。また大学での必要経費について貸し付の支援をした。

２．IAVI 留学生支援事業

（１）留学生の受け入れ

今年度の留学生の受け入れは行わず、留学生の募集・選考を公開して、組織的に決定していくシステムを再構築するべく、募集要項、選考方法等を整備した。

また、それに基づき、次年度の募集要項を公開した。

（２）在学中、帰国後の各国留学生の支援等

在日中の留学生の入学式や卒業式に出席した。

春休み、GW、夏休み、シルバーウイーク、冬休み等盲学校寄宿舎の閉舎時に宿泊支援を行った。

なお、今年度は不慮の事故でリハビリ生活を会館で過ごした留学生のために宿泊支援体制をとった。入院、転院、リハビリ生活の支援を通して少しずつ恢復することができた。多くの支援の皆様の存在があったからこそのものである。しかし会館でのリハビリ生活での宿泊支援について、担当してくださった方任せになってしまい、こちらの責任ある管理、指導がきちんとできない事象を生み出してしまった。あらゆる状況においても、責任をもって、法令順守の下に、業務を進めて行くことの大切さを改めて確認し、宿泊支援体制のあり方を含めて、今後の改善に着手した。

学校生活や役所に届ける諸手続き、その他必要な支援を行った。

３．点字図書の製作と相談等

昨年と同様、自治体から封筒に貼る点字シールの依頼があり、作製をおこなった。

交流のできた区議や、支援者から紹介された法人や個人の方から点字名刺作成依頼があり、「あなたの名刺に点字を」というチラシ配布効果もあり、少しずつではあるが点字名刺作成の活動は広がっている。

大学での福祉関係授業で用いる点字テキストの作成をおこなった。

企業からの点字作成依頼も出てきているが、こちらの作成能力の課題もあり、仕事に結びつけないケースもあった。

「点字選挙プロジェクト」についても、今年度も引き受ける体制がなく、参加できなかった。

４．視覚障害者の国際交流、地域交流、自立支援

（１）日本語学習サポート活動

故浅野理事と共に視覚障害者の日本語学習、日本語教育についての研究活動をされてきた先生方との連携で、海外の視覚障害者の日本語教育について啓発や情報提供をしたり、実際に日本語学習のサポートを行う活動を進めるための日本語学習研究の部屋を整備した。

理事の庄がメキシコ、中国、トルコ在住の視覚障害者へのオンラインレッスンを継続している。

北川先生のご尽力で、オンラインで元留学生との日本語学習を２週に一度、上級レベルの語彙、読解とともに、話すことを大切にしている勉強会が継続している。柔軟な形式で開催しており、今後もさらに勉強したい元留学生にとって大切な場となっている。また、各国事情の交流という面でも貴重な場になっている。

（２）研修活動、出前授業

筑波技術大学の依頼で、エジプトからの全盲研修生の、日本語会話の学習、研究テーマについて関係者との情報交換、関西の施設見学の支援などを行った。今後このような事業は私たちが有する特異性を発揮できる活動として広げたい。

小学校からの出前授業の実施はなかったが、来年度の問い合わせがあった。

（３）視覚障害者の国際交流と協力、地域交流等

①今後の可能性を示した点字考案２００周年記念シンポジウムの実施

点字考案２００周年記念シンポジウムを開催して、その内容を YouTube で発信した。台湾、ネパール、ケニア、マレーシア、キルギスの５か国の元留学生に各国の点字の説明、それぞれの点字との関わり、各国の点字の状況などを Zoom で発表してもらい、会場とオンラインで７０名以上の方が参加した。点字の役割について、私たちの長い活動の成果からの提案ができたこと、元留学生と一緒に準備したこと、支援者と共にイベントを作り上げたこと、成果を YouTube で公開したこと、いずれも今までになかった、今後につなげられるイベントであった。

②海外でのマッサージ研修会に参加

中国洛陽で開催された第 1 回アジア太平洋地域視覚障害者按摩研修会に参加した。

韓国ソウルで開催された第１７回 WBUAP（世界盲人連合アジア太平洋地域協議会）マッサージセミナーに参加した。

マレーシアの元留学生、現在日本で研修している留学生３人で、マレーシアでのマッサージ研修会を企画した。日々患者に施術している２名の先生が実践的な研修をしてくださり、現地の視覚障害マッサージ師の皆さんに大変好評であった。

上記３点について『ロータス通信』に報告を掲載した。

③継続的な支援活動

セントルシアでの視覚障害者の指圧センター作りの活動を黒岩氏、綱川氏と

協力して、『ロータス通信』に継続的に掲載し、広くアピールした。
④誰もが気楽に国際交流を体験できる場
　「ハワリンバヤル」（モンゴル祭り）にモンゴルからの留学生と参加し楽しく交流をした。
　「グローバルフェスタ JAPAN2025」に参加した。今回は留学生の国の大使館等、見学のブースを決めて、こちらの活動紹介を重点に置いて参加した。
⑤サロン活動
　毎月「こもどサロン」を開催した。今年度は、気楽に話せる場として開催することを何より大切にした。中途視覚障害者の方たちの発言が、参加者にとって元気を届ける内容になった。板橋区内の参加者も少しずつ増えてきているので、区内にこんな場があることをもっとアピールして、「見えなくても元気で生きていく」というつながりを広めていきたい。
⑥新年会の開催
　コロナ以後開催していなかった、IAVI 新年会を数年ぶりに地元の清水地域センターで開催した。人数は 32 人と少なかったが留学生との交流、参加者同士の交流を深めることができた。
⑦その他の交流活動
　上尾の「領家グリーンゲイブルズ」で留学生たちが友人・支援の皆さんと交流。
　栄養士の先生のご指導で、舟橋記念会館で留学生たちが日本のお正月料理作り体験。
⑧板橋区内のイベント等
　板橋ふれあい祭に参加（留学生の体験マッサージ、白杖の説明）を行った。今年度は、新しい出会いを作ることを積極的に行い、新しいパンフレットの配布と、新しい出会いを作ることができた。
　地元の清水地域活動見本市と障害者週間記念事業に参加して活動紹介を行った。
　舟橋記念会館滞在中の留学生の食事作り、とりわけマレーシア留学生のハラル食の提供をとおして、食事作りを支援してくださった地域の方々に多文化共生の理解を深めることができた。

５．会館と事務局の運営

　留学生の帰省場所として、またサロン活動、中途視覚障害者の皆さんの勉強と交流の場、地域日本語のサポート、日本語研究会の場として舟橋記念会館の機能が増してきている。そのような中で施設の全体を点検して、「財産管理・備品整備」の項目の整備を行った。
　経理をはじめ、法人事務全般をこなしてくださった中さんが急逝したことの

影響は大変大きいものであった。担当者任せという点の反省に立って、年度末からは、３人での体制を組んで、経理事務の改善を開始した。また、都の実地検査で、これまでの法人運営の課題も指摘されたのを踏まえて、これまであいまいにされてきた法人運営についても、諸規定の検討から始め、積極的な見直し作業を開始した。

６．広報活動

援護協会の PR パンフレットを 20 年ぶりに全面更新した。活動の広がりをメインに、内容・デザインを一新し、広く配布した。点字版、拡大版も作成した。

念願の援護協会の公式の facebook を作成し、PR 活動の広がりを作ることができた。

『ロータス通信』を年間４回、第３１３号から第３１６号まで編集・発行した。墨字版、点字版、テープ版と各種媒体を合わせて毎回７００部を送っている。316 号より、最終編集の担当を置き、読みやすい紙面への変更を実施した。

HP で「ニュース」の項目に様々な活動の紹介を掲載したが、１カ月に記事２本という方針が実践できないことがあった。担当制をとって今後は確実に実践したい。

７．他団体等との交流

板橋区内で活動する地域日本語の先生が、援護協会の部屋を利用して日本語サポートを行ったり、地元のベトナム料理店の子供の勉強のサポートを開始し、そのつながりで先生たちがこちらのサロンに参加したり、日本語を学ぶ生徒がこちらの新年会に参加したり、今後の地域の国際交流の可能性を拡げた。

地元地域の支え合い活動を進める「おたがいさまネットワーク」に継続的に参加して、地域課題について学びながら地域との交流を深めている。またこちらの『ロータス通信』発送作業を手伝ってくれている。

中途視覚障害者の皆さんが iPhone の勉強会「ゆるスマ」を開催するため、第４土曜日の午後に多目的室をお貸しした。こちらのサロンにも参加してくれて、たくさんの刺激をもらえた。

地元の東京都チャレンジドプラス TOPPAN を訪問し交流した。

ＮＰＯ法人横浜市視覚障害者福祉協会が、「海外で注目されるマッサージ・指圧」という最近の動きをとらえて、前 JICA 海外協力隊員綱川章氏を招いた講演会を開催し、援護協会からも留学生支援の活動報告をする機会をいただき、台湾

の元留学生からオンラインで台湾のマッサージの状況報告を行った。

８．財産管理・備品整備等

雨漏り対策を兼ねて外装塗装工事を実施し、今までのイメージを一新して明るい会館になった。

留学生の居室は、畳やふすまなどが大変古く痛んでいたので新しくして、楽な姿勢で勉強できるようにと、洋室にして机で勉強できるようにした。

３階のベッドの部屋を、新しい事業のための「日本語学習 LABO」として整備した。

寝具も管理がされておらず、不潔な状態だったので、快適に使用できるように整備した。

忙しいなかで、30 年の間にたまった不用品を整理して、会館全体を明るく、きれいに整備し、今後の更なる活用の可能性をひろげた。

９．収益事業

駐車場の運営は、車が３台バイク２台。

１０.「地の塩基金」「侑心基金」

「地の塩基金」の海外の視覚障害者のマッサージ支援という趣旨に沿って、マレーシアでのマッサージ研修会への日本からの講師派遣に活用し、有意義な研修会を実施できた。

「侑心基金」については視覚障害者の日本語学習支援という基金の趣旨に鑑み、オンラインでの海外との日本語サポートの経費に充てるとともに、本格的な事業展開のための「日本語学習 LABO」の整備のために活用した。

2037 社会福祉法人　国際視覚障害者援護協会

資金収支計算書(1－1)

第一号第一様式

自　令和　7 年　4 月　1 日　至　令和　8 年　3 月 31 日

（単位：円）

勘定科目			予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
事業活動による収支	収入	駐車場収入	880,000	744,000	136,000	
		その他の事業収入	400,000	748,240	-348,240	
		助成金事業収入	90,000	60,000	30,000	
		経常経費寄附金収入	5,040,000	6,047,364	-1,007,364	
		その他の収入	10,000	154,623	-144,623	
		事業活動収入計 (1)	6,420,000	7,754,227	-1,334,227	
	支出	人件費支出	2,320,000	5,276,626	-2,956,626	
		事業費支出	2,580,000	401,443	2,178,557	
		事務費支出	6,670,000	11,681,754	-5,011,754	
		事業活動支出計 (2)	11,570,000	17,359,823	-5,789,823	
	事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)		-5,150,000	-9,605,596	4,455,596	
施設整備等による収支	支出	固定資産取得支出	300,000	0	300,000	
		施設整備等支出計 (5)	300,000	0	300,000	
	施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)		-300,000	0	-300,000	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	5,500,000	10,000,000	-4,500,000	
		その他の活動収入計 (7)	5,500,000	10,000,000	-4,500,000	
	その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)		5,500,000	10,000,000	-4,500,000	
予備費支出 (10)			50,000		50,000	
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)			0	394,404	-394,404	

前期末支払資金残高 (12)		20,906,556	17,614,804	3,291,752	
当期末支払資金残高 (11) + (12)		20,906,556	18,009,208	2,897,348	

2037 社会福祉法人　国際視覚障害者援護協会

事業活動計算書

第二号第一様式

自　令和　7 年　4 月　1 日　至　令和　8 年　3 月 31 日

（単位：円）

勘　定　科　目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増　　減
サービス活動増減の部	収益	駐車場事業収益	744,000	879,000	-135,000
		その他の事業収益	748,240	434,030	314,210
		助成金事業収益	60,000	60,000	0
		経常経費寄附金収益	6,047,364	26,312,141	-20,264,777
		サービス活動収益計 (1)	7,599,604	27,685,171	-20,085,567
	費用	人件費	5,276,626	4,095,651	1,180,975
		事業費	401,443	1,260,757	-859,314
		事務費	11,681,754	5,031,916	6,649,838
		減価償却費	1,232,806	1,203,030	29,776
		サービス活動費用計 (2)	18,592,629	11,591,354	7,001,275
	サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)		-10,993,025	16,093,817	-27,086,842
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	0	12	-12
		その他のサービス活動外収益	154,623	71,389	83,234
		サービス活動外収益計 (4)	154,623	71,401	83,222
	サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)		154,623	71,401	83,222
経常増減差額 (7) = (3) + (6)			-10,838,402	16,165,218	-27,003,620
特別増減の部	費用	特別費用計 (9)	0	0	0
	特別増減差額 (10) = (8) - (9)		0	0	0
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)			-10,838,402	16,165,218	-27,003,620
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)		41,679,140	25,513,922	16,165,218
	当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)		30,840,738	41,679,140	-10,838,402
	基本金取崩額 (14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)		0	0	0
	その他の積立金積立額 (16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (17) = (13) + (14) + (15) - (16)		30,840,738	41,679,140	-10,838,402

2037 社会福祉法人　国際視覚障害者援護協会

貸借対照表

第三号第一様式

令和 8 年 3 月 31 日 現在

（単位：円）

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	18,873,827	18,395,556	478,271	流動負債	864,619	780,752	83,867
現金預金	16,519,538	16,260,874	258,664	未払費用	734,280	680,047	54,233
事業未収金	304,450	228,250	76,200	給与源泉預り金	74,339	74,924	-585
仮払金	51,764	0	51,764	報酬源泉預り金	0	13,781	-13,781
短期貸付金	1,998,075	1,906,432	91,643	前受金	0	12,000	-12,000
固定資産	212,789,070	224,021,876	-11,232,806	その他の流動負債	56,000	0	56,000
基本財産	177,397,470	177,816,139	-418,669	固定負債	0	0	0
土地	78,812,640	78,812,640	0	負債の部合計	864,619	780,752	83,867
建物	8,584,830	9,003,499	-418,669	純資産の部			
定期預金	90,000,000	90,000,000	0	基本金	199,957,540	199,957,540	0
その他の固定資産	35,391,600	46,205,737	-10,814,137	国庫補助金等特別積立金	0	0	0
器具及び備品	2,078,648	2,826,785	-748,137	その他の積立金	0	0	0
権利	224,952	224,952	0	次期繰越活動増減差額	30,840,738	41,679,140	-10,838,402
ソフトウェア	88,000	154,000	-66,000	（うち当期活動増減差額）	-10,838,402	16,165,218	-27,003,620
基金積立資産	33,000,000	43,000,000	-10,000,000	純資産の部合計	230,798,278	241,636,680	-10,838,402
資産の部合計	231,662,897	242,417,432	-10,754,535	負債及び純資産の部合計	231,662,897	242,417,432	-10,754,535